



# ONE WORLD Info

## 英語教育 通信

### 特集：今後の英語教育はどうなる

日本の英語教育はなぜ、どう変わるのか … 松本 茂

小学校が変える日本の英語教育 … 石塚 博規

### 中学校実践例 教科書を活用して～「見せる」表現活動で関心・意欲を高める～ … 加藤 真由子

教科書を隅々まで活用するために … 野村 直子

簡単！便利！デジタル教科書のすすめ … 木埜 亜紀子

### 小学校外国語活動 夢中になれる英語の学習をめざして … 中島 佳史

### 連載 とっておきの英語7 You're Annie? … 野田 小枝子

今ドキ英語事情 Promises, promises … Peter J. Collins

## 日本の英語教育はなぜ、どう変わるのか

立教大学 松本 茂

### 1 はじめに

第2次安倍政権は英語教育改革のための施策案を矢継ぎ早に提示している。「英語教育構造改革」と銘打ってもよい感じさえするくらい、大きな変革の方向性を打ち出している。

本稿では、この速い動きの背景をさぐり、実際にどのような施策や案が提示されていて、こういった流れが現場の教育にどのような変化をもたらす可能性があるかについて論じる。

### 2 産業界からのプレッシャー

「入学してきた生徒の何年後を考えて授業していますか?」と中学・高校の先生たちに問うと「3年後」と答える方が圧倒的に多い。英語教育のゴールは次の教育機関の入り口(入学試験)だけに向いていてよいのだろうか。

いっぽう、産業界のトップは、2050年までに日本の人口が3,000万人減少するとともに超高齢化社会となって、国別GDPでは世界6位(現在3位)に落ち込むという予測をもとに長期的な戦略を練っている。多くの経営者は国外へ活路を見いだし、かつ日本国内をグローバル化するしかない、と考えている。

前述したように残念ながら「英語は生涯学習の対象」という意識は英語教員の間では低い。しかし、この春に中学校に入学する生徒たち(13歳)は、2050年にはまだ49歳だ。企

業では部長クラス。そのとき(までに)、英語を使って仕事ができるか、そうでないかで実力を発揮するうえで大きな差が出ることは、産業界の方にレクチャーされなくても自明の理である。対応できる英語力の基礎を造るのは中学校時代であろう。

いずれにしても、「教育界の役割は、産業界が望む人材を育成することではない」といったきれいごとを言っていられないくらい状況は切迫している。しかも、人材を育成するシステムを構築するには時間がかかる。

内閣総理大臣が議長を務める「産業競争力会議」では、民間議員である三木谷氏らが、英語力の向上のために国家公務員の採用試験にTOEFLを採り入れることを提案した。これを受けて人事院が検討し、2013年12月27日に、2015年度为国家公務員採用総合職試験から4種類の外部英語検定試験(TOEFL iBT, TOEIC, ILETS, 英検)を加算方式で活用することを発表。25点加算の基準は、それぞれ80以上、730以上、65以上、準1級以上だ。

なお、三木谷氏が代表取締役会長兼社長を務める楽天株式会社では、入社するにはTOEIC 800点が必要とされている。

### 3 教育改革の推進

小学校から大学までの教育全般の在り方、教育体制などの課題について、内閣総理大臣が開催している「教育再生実行会議」で議論されており、これまでに第4次提言まで発表されている。この会議での議論は英語教育に

も大きな影響を与える。例えば、2014年4月頃に採択結果が発表されるスーパーグローバルハイスクール（SGH）事業もこの会議の提言にもとづいたものだ。

同会議は大学の入学者選抜の方法について「多面的・総合的に評価・判定する大学入学者選抜への転換を」という突っ込んだ内容の提言をしている。この動きを受け、大学は外部英語検定試験（人事院が採用を決めた4種類のテストに加えて、GTEC、TEAPなども含む）の活用を検討している（一部の大学ではすでに採用を決定）。東大や京大が推薦入試の計画を発表したことからもわかるように、大学入試制度は大きく変わりそうだ。

また、高校教育に関しては「基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等について、高等学校において共通に身に付けるべき目標を明確化する」としている。

この目標の明確化という課題に関しては、2013年度に文科省と県教委からの指示で、全国の多くの高校の英語科教員はヨーロッパ言語共通参照枠（CEFR）やその日本版CEFR-Jなどを参考にしつつ、Can-doリストを作成し、指導に生かし始めている（一部の都府県では遅れている）。さらに、2014年度には文科省自体が、学習指導要領の記述をもとに国としてのCan-doリストを提示する可能性がある。CEFRのB1またはB2が高校卒業レベルとして設定される予定だ。

じつは、Can-doリストに関しては、現行の『中学校学習指導要領』（2008年3月告示）に「各学校において、生徒や地域の実態に応じて、学年毎の目標を適切に定め、3年間を通して英語の目標の実現を図るようにすること」とあるように、本来は中学校の教員が率先して取り組むべき課題だった。しかし、現状では文科省の「英語によるコミュニケーション能力・論理的思考力を強化する指導改

善の取組」事業の拠点校に指定された高校を中心にリストを設定、活用している。2014年度には中学校でも同リストの作成を求められる可能性がある。

## 4 英語教育改革実施計画

2013年12月13日に下村文科大臣は、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を発表した。かなり包括的で、かつ具体的な施策案となっている。案なので、この計画に示されたことがすべてこの通りに実施されるとは限らないが、この計画で設置が示された「英語教育の在り方に関する有識者会議」や「中央教育審議会初等中等教育部会」での議論に大きな影響を与えるはずだ。

本計画で示された施策のうち、中学の英語教育に関して重要と思われる点は以下の通り。

- ・小学校における「外国語活動」が3～4年次、週1～2コマに。5～6年次は「外国語（英語）」という教科になり、週3コマ。
- ・中学校においても授業を英語で行うことを基本とする。
- ・中・高校英語教育推進リーダーを養成。
- ・外部英語検定試験を活用し、県等ごとの教員の英語力の達成状況を定期的に検証する。すべての英語科教員について、英検準1級、TOEFL iBT 80程度等以上の英語力を確保する。
- ・ALTの配置を拡大する。

上記のうち、小学校での英語教科化以外は、つぎの学習指導要領の改訂を待たずに実施される可能性が高い。そのときに慌てないためにも、中学の先生は以下のような準備を前もってしておいてはどうだろうか。

- ・外部英語検定試験を活用して、ご自身の英語力を把握する。文科省が期待している英

語レベルを満たしていなければ、英語力をあげる方法を考え、実施する。

- ・CEFR、CEFR-Jに関して情報を収集する。
- ・授業でどのような活動を展開するかを明確にしつつ、同僚と協力して各学年の到達目標をCan-do形式でまとめる。
- ・英語「で」授業をする方法、活動内容を検討する。関連する研修会に参加する。
- ・ALTとの効果的なTeam-Teachingの方法についての研鑽を積む。
- ・小学校の外国語活動（英語教育）先進モデル校（3年次から導入している学校など）の授業を見学し、小学校の先生と情報交換をする。
- ・高校における英語「で」行う授業を見学し、高校の先生と情報交換をする。

次の学習指導要領の改訂（通常よりも時期が早まる可能性大）では、小学校で「外国語（英語）」が5・6年次の教科になるのはほぼ間違いない。教科になれば読み書きも導入される可能性が高い。

そうなれば、中学1年の言語材料のほとんどが小学校に降りていくだろう。それとともに、高校1年の言語材料を中学校で扱うようになるであろうし、なによりも英語での活動のレベルの高度化が求められ、読む英文量が増えるはずだ。そのためには、自身の英語運用能力を高めておく必要があるかもしれない。

## 5 条件整備ができるか

文科省や官邸主導の様々な会議において、2015年度以降の予算折衝で「英語教育の条件整備」のために財務省を説得するための論拠や証拠を積み上げることができるかに注目しよう。

子どもたちの将来を考えたとき、英語教育

の改善は待ったなしの状況であるとしても、現場の先生たちの努力だけに頼るわけにはいかない。条件整備が必要である。

- ・授業時間数、部活動指導、生徒指導などの軽減が必要だ。教科指導の前提となる教材開発、英語力向上のためにもっと時間を割けるようにする必要がある。
- ・1クラスの生徒数を最大約25名にする。
- ・東京都が2014年度に英語科教員（中学・高校）140人を3ヵ月海外に派遣し、英語指導力を向上させるためのプログラムに予算を計上しているように、海外研修を増強させるべきである。
- ・学校のICT環境を整え、使い勝手のよいものにする必要もある。図書室の整備も不可欠である。

今の教員は、これまで以上に時代の風を読まなければならない。英語科教員のみなさんには、教育改革の旗手として、やりがいを感じて改善に取り組んでほしい。教育現場とは、いずれにしても日々改善が必要な場なのだから…。

### 【参考】

以下のワードを検索して時代の風を感じよう。

- 産業競争力会議
- 人事院「国家公務員採用総合試験における英語試験の活用」
- 教育再生会議「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について（第四次提言）」
- CEFR / CEFR-J
- 文部科学省「スーパーグローバルハイスクール」
- 文部科学省「英語教育の在り方に関する有識者会議」

## 小学校が変える日本の英語教育

北海道教育大学 石塚 博規

### 1 はじめに

2012年12月に突然発表された小学校英語科の導入には様々な反応があるようである。もちろん賛成・反対の立場からの意見があることは想像できるが、「そんなに早く？」という驚きの声が大きかったようである。それも道理で、外国語活動は2011年に始まったばかりで、その効果の検証もされていない。しかし、一方でこのことはある意味で予期されていたことでもある。日本周辺の国々や地域の状況を見れば、小学校英語科の導入は時間の問題であると思えるからである。

### 2 アジアの小学校英語教育

現在、韓国・台湾では、小学校3、4年生で週2時間、5、6年生で週2～3時間が英語の授業に充てられている。香港は1997年までイギリス統治下にあったこともあり、1年生から週6～8時間学習している。授業を担当するのは、高学年ではほとんど専科の英語教員である。一方、授業内容と指導法は各地域で異なっている。韓国では指導法理論を背景としたタスクを取り入れた教授法が行われている一方、台湾ではどちらかという教師主導の一斉指導が多いようである。香港では、ネイティブ・スピーカーによる低学年からの徹底したフォニックス指導と読書指導が行われている。

このように、指導方法上の違いはあるものの、これらの国・地域には英語教育に対する

共通した理念が存在している。それは、グローバル化社会に対応できる人材の育成ということ、すなわち、「国際社会で生き残るために英語を習得する」という明確な目的設定がされているということである。これらの地域では、小学校で英語が教科とされてからすでに十数年になり、その成果の実態も明らかになりつつある。一例をあげれば、これらの国・地域の若い小学校教員は、ネイティブ・スピーカー並みの高い英語運用能力を持っている。(著者が各国を訪問しインタビューにより調査)これはグローバル化を目指した英語教育の成果であると考えることができる。英語運用能力の高い教師を自国の中で再生産できれば、加速度的に成果が学習者に還元されていく。その好循環がすでに始まっているといえる。

### 3 小学校英語科の導入

このようなアジア各国・地域の英語教育の進展を見ると、日本だけが取り残されている状況が見えてくる。そこで、国としては一刻も待たず、内閣府主導の今般の英語教育の大改革案が登場してきたわけである。現在検討されるたたき台となっている案は、低学年から週2時間程度、5、6年生では教科として週3時間英語の時間を設けるというものである。これは、上述のとおり、韓国、台湾での英語授業の時間数とほぼ同じである。この案からも今回発表された導入案は、アジアを強く意識していることが読み取れる。

## 4 これからの小中連携

さて、それではこのような小学校での英語科の導入案を前提として、どのような小中の連続性が求められるのか。また、中学校としてどのような準備をしたらよいのか。小中連携を行う上で、大きく3つの側面を考慮する必要がある。一つは、カリキュラムの連続性、一つは、指導方法の連続性、そして一つは、言語材料の連続性である。

### ① カリキュラムの連続性

小中のカリキュラムの連続性を考えるときに注意しなくてはならないことは、「文法構造」の視点のみでは不十分であるということである。コミュニケーション能力を総合的に育むようなカリキュラムの連続性が必要となる。現在でも学習指導要領では、以下のように、教材で取り扱う「場面」において連続している。(太字が共通して扱われる場面)

小学校外国語活動

**あいさつ・自己紹介・買物・食事・道案内**

中学校英語科

**あいさつ・自己紹介・電話での応答・買物・道案内・旅行・食事**

CanaleとSwainはコミュニケーション能力には4つの下位能力があることを指摘した。言語能力(文法能力)はあくまでもその下位能力の一つである。他に、談話能力、社会言語学的能力、方略的能力がある。つまり、コミュニケーション能力とは、文法的能力だけでなく、ある特定の場面においてメッセージの伝達や解釈、意味の交渉ができる能力なのである。小学校に英語科が導入された場合、中学校側としてはこのコミュニケーション下

位能力のそれぞれが小学校でどこまで学習されているのか、例えば、どのくらいの長さのコミュニケーションを維持できるのか(談話能力)、ドアを開けてほしい時に、“Open the door, please.”のほかにもどのような表現を使えるようになっているのか(社会言語学的能力)、相手の発話がわからない時にどう聞き返したり(明確化要求)、応答できるのか(リキャストやリピート)といったことに関して理解するとともに、小中連携によるスパイラル指導で質の高いコミュニケーション能力の育成を目指すことが求められるだろう。

### ② 指導方法の連続性

指導方法の連続性は一番難しく、誤解を生みやすい側面である。

これまで中学校では、一般的に文字の読み方、書き方指導から始まり、文字に頼った英語の指導が行われてきた。生徒からすると英語の音声面(スピーキングやリスニング)の能力は特別な能力であるといった認識があるかもしれない。しかし、小学校で外国語活動が始まってからは、子どもたちが英語に触れるのはもっぱら音声によってである。これは、英語という言語を音のチャンク(固まり)と意味のセットとして丸ごと聴きとりそのまま使っていることに他ならない。それゆえ、What is this?よりもWhat's this?の方が、I am from...よりもI'm from...の方が扱いやすい。What's = What is であるということを知っていなくてもよい。音声言語は、現れては消えるreal timeな音連続であるため、正確さよりも流暢さに焦点が置かれる。一方、中学校での文字に頼る学習は正確さに焦点化せざるを得ない。例えば、She like English. と生徒が書いてしまうと、教師は誤りを指摘しなくてはならない。よって、小学

校での音声中心の指導から中学校での文字中心の指導、すなわち、流暢さ重視から正確さ重視への焦点の移行は学習上大きなギャップを生む可能性がある。これは、中学1年生の当初から英語嫌いを多く生み出してしまうリスクを高めることにもつながるだろう。今後小学校に英語科が導入され文字が扱われたとしても、音声中心の指導を補うものとしての文字の位置づけは変わらないであろうから、中学校側としては、これまでのような文字に頼る指導から、音声中心の指導に指導方法を切り替えるとともに、文字による指導で正確さに徐々に焦点化していくといった、指導のパラダイムシフトが必要となるだろう。

### ③ 言語材料の連続性

言語材料の点では、扱う語彙と表現（文法構造）の連続性が求められる。現在の中学校教科書*ONE WORLD English Course*では、小学校外国語活動で主に使われている*Hi, friends!*で子どもたちが触れる単語の60%程度をカバーしている。これは、逆に言うと、40%程度は小学校で扱われたきり、この先恐らく触れることがないということでもある。すなわち、現在、小中は語彙の点では繋がっているとはいえないわけである。中学1年生の秋に行った語彙調査で、小学校のみでしか扱われない語彙の4分の3が忘却されるという結果が出ている。「もったいない」話である。

表現については、小学校で扱われるものは中学校でもすべて扱われる。Whyを除くopen-ended question (How, When, What, Where)も出現し、When is your birthday?やWhat do you want to be?などもすでに触れている。大よそ50表現くらいになるが、これらの表現が中学校の教科書ではどこで出現するのかを、中学校側が知っている、自ずと導入の仕方がこれまでと変わってくるは

ずである。また、将来的には中学校の教科書にもそのような情報が付加されることが求められるだろう。

## 5 終わりに

小学校において英語が教科となり、低学年で週2時間、高学年で週3時間となった場合、小学校での英語総学習時間は350時間となる。中学校の総学習時間である420時間に上積みされるとかなりの時間増だと思えるかもしれないが、インプットの量としてはどうか。母語習得や留学時の英語に触れる時間（2か月の留学で一日8時間として480時間）と比べると圧倒的に少ない。この時間だけでは決して高いコミュニケーション能力を育むことはできないだろう。インプット量の不足は、指導方法の工夫では補いきれるものではないからである。となると、これからの英語教師に求められるのはどのような力なのか。

答えは「自律的学習者の育成」ということにありそうである。すでに述べたように、香港では小学1年生からフォニックスを徹底的に学習するのだが、これは児童が一人で英語の本を読み、自ら学習を進めていくことができる力を養うことを目的としている。文字とその読み方を教えることが重要ということではない。その背後にしっかりとした教育理念があり、育てたい子ども像が明確であることが重要である。我が国においても、英語教師として、私たちは、子どもたちに英語を学ぶ真の面白さを伝えられ、子どもたちが高い動機、目的観をもって自律的に英語の学習を続けていく力を養うことができる「高い支援能力」が求められるだろう。とても大きな課題だが、英語教師にとってはとてもやりがいのある挑戦となるだろう。

# 教科書を活用して

～「見せる」表現活動で関心・意欲を高める～

東京都調布市立第五中学校 加藤 真由子

## 1 表現したがない生徒たち

自分の席にきちんと座りじっと話を聞いているが、発言はしない。全体に問いかけても反応がない。声が小さく、目立つことは絶対にしない。昨年度受け持った3年生は、そういう生徒たちだった。英語は実技教科と言われるほどに、使えたときにこそ感じられるおもしろさがある。新学習指導要領にも、「自らの考えなどを相手に伝えるための『発信力』やコミュニケーション」の重要性が明記されている。表現することの楽しさをぜひ伝えねばと感じた。本稿では、4技能のうち特に「話すこと」「書くこと」の表現活動にスポットを当て、成功した実践事例を紹介する。

## 2 落語パフォーマンステスト

ONE WORLD English Course3のLesson3 “Our First Rakugo in English” では、日本文化を発信する話題として、英語落語を取り上げている。そのまとめとして自分たちでも落語のパフォーマンスを実践した。教科書に登場する『動物園』という演目は、動物園で死んだトラの代わりに、トラの着ぐるみを着てトラのふりをする男の話である。

【Lesson3-2】動物園の経営者が男に仕事の内容を説明する場面

【Lesson3-3】トラのふりをしていると突然トラとライオンの猛獣対決ショーが始まるとアナウンスが入る場面

【Lesson3-4】猛獣対決ショーが始まりトラの檻にライオンが入ってくる場面。

以上の3つのシーンから1パートを選択し、

おのおのがジェスチャーやパフォーマンスを創意工夫し、英語の正確さとプレゼンテーション力を評価するのがテストの趣旨である。

パフォーマンスの課題は夏休み前にアナウンスし、テストは2学期の3週目から実施した。十分な準備期間を確保しながらも、授業中に練習する時間はとらず、生徒自身がいわば家庭学習の形で準備した。また、過去に同じ課題に取り組んだ3年生のモデルとなるVTRを見せ、事前に評価する観点と基準を示した。こうすることで、パフォーマンスへのイメージを膨らませることができ、更によりよい演技を考える材料となった。

落語パフォーマンスは一人ずつ別室で行い、ビデオに録画する。法被を着用し、扇子は自由に使用してよい。評価は、①Voice ②Pronunciation ③Intonation ④Fluency ⑤Accuracy ⑥Voice Acting ⑦Gestures ⑧Facial Expression ⑨Eye Contact ⑩Funの10観点。

パフォーマンス直後に評価は返却せず、全生徒が終わった段階でビデオを再度見直し、評価の適正さをALTとともに審議したのち返却する。生徒は恥ずかしがりながらも非常によく取り組み、テスト後には、早く評価が知りたいと個別に聞きに来るほどだった。

### 落語パフォーマンステスト①



## 落語パフォーマンステスト②



## 3 ガイドブックを作ろう

落語の後、ユニット全体のまとめとして「自分たちの町のガイドブックを作ろう」というプロジェクトが設定されている。それを「世界の町のガイドブックを作ろう」にアレンジして取り組んだ。ポイントは「国」ではなく「町」にすることだ。「町」にすることで、内容が他の生徒のそれと差別化され、オリジナリティあふれる作品が仕上がるとともに、人の作品を鑑賞するおもしろさが増す。6時間を確保し、以下の手順で作成を進めた。

(1)「ガイドブックづくりの準備」として資料集めを夏休みの宿題にする。

- ①調べる町を決める。
- ②その町の有名なことを3つ調べる（観光地、食べ物、有名人、伝説、歴史など）。
- ③その町に関するパンフレットや資料を集める。

(2) ALTにモデルとなるガイドブックを作成してもらい、TTで導入する（第1時）  
本校のALTは、スコットランドのガイドブックを作成し、エジンバラ城、スコッツマンホテル（エジンバラの高級ホテル）、ブラックブディング（ブタの血入り肉詰め）について紹介し、書き方の説明やガイドブックで使える表現を導入した。

(3) 毎時間の作成進捗の目標を設定し、進捗状況をチェックする（第2時～第6時）

- ①資料収集など準備ができているか
- ②下書きを書く→宿題で調べたことを英語にする

③下書きを提出する→ALTに英文のチェックを受ける

④清書する

⑤写真や資料の貼り付け、イラスト挿入、仕上げ

⑥評価は、3の進捗状況の合計点に内容点（表現力・仕上がり）を加えたものとした。

### ガイドブック表紙



### ガイドブック中面



## 4 おわりに

本校では10月に文化祭がある。そこで英語科の展示室を作り、ガイドブックを展示するとともに、優秀な落語パフォーマンスをビデオコーナーで放送した。人に作品を見てもらうことは、生徒の自信につながり励みとなったようだ。これらの活動を通して、明らかに生徒は良い方へ変容した。定期テストの際に、関心・意欲・態度のアンケートをとっているが、「英語は好きですか」という項目に関して、6月の平均値が5点満点中3.51ポイントから、10月には3.63ポイント、11月には3.97ポイントに上昇した。英語に対する関心興味が高まり、授業の発言が活発になり、音読をきちんとしようとする生徒も増えた。表現することのおもしろさを少なからず伝えられたのではないかと感じている。

# 教科書を隅々まで活用するために

神奈川県相模原市立共和中学校 野村 直子

## ONE WORLDに目を通して

私が勤務している相模原市では他社の教科書が使われている。そのため、ONE WORLD English Courseで授業をするとしたら、を考えるために、限られた時間で目を通した。その過程で今後に活かせるいくつもの示唆に恵まれた。内容やイラスト、導入の順序などにこめられている思いや工夫が無数に受けとめられた中で、特に心に刻んだ部分についてメモした内容と、そこから想像した展開について記したい。

### 1 全体を通して

#### ①Taskでsummary writing

各課のまとめをしながら、同じ語句を繰り返して使う良い機会になっている。他の読みものや、現在使っている教科書を扱った後にも応用したい。

#### ②Culture Watch

多くは写真つきで、本文には盛り込まれなかった内容が補われている。調べたり、ALTに尋ねたりして、各課に関連した資料を作るときもあるが、教科書に資料としてこのようなコーナーがあるのは有り難い。生徒たちが、彼ら独自の“Culture Watch”作成をするにも良いモデルになると感じた（インターネットで情報が容易に入手できる一方、それを写すだけでも可能になり、生徒独自の作品を求めるのが難しくなっているが。）

#### ③Vocab Builder

置きかえ可能な語句を紹介している。1・2年生の教科書に点々とあり、生徒たちがさらに使える／使いたい語句を気軽に増やせる。

生徒たちとの活動を通して集めた語句をまとめて資料にし、蓄積していけば、その学年独自のVocab Builder Bookletができて、生徒たちもより身近に使いやすいのでは、と想像した。

#### ④教科書表紙の絵

多くの人たちや動植物、ものが描かれており、活用しやすく配慮されているのではないかと感じた。表紙の絵を活用した活動を事前に用意しておけば、授業が早く終わったときなどに使えるのでは、と考えた。

1年生では表紙中央左側の芝生の上を走る女性について、L.8の現在進行形の表現と連動させて、That lady is running. Why? — Because her sons are running around. などと使える。

2年生の表紙では、左上部の少年たちについて、不定詞want toの表現を使い、The boys are looking into the window. They want to buy new shirts.あるいはイラスト右上の女性についてThis lady opened the window to say good morning to the green bird.などと目的を表す不定詞を使った表現ができる。

3年では、人や物について関係代名詞を用いて説明する活動ができる。

### 2 各課の内容や語句に関心を寄せて

外国語学習を通して、母語との相違点を受けとめ、考える機会を大切にしたいと感じている。自分が中学生のとき、初めて英語に接し、習う中で感じたような面白さを、生徒一人ひとりがそれぞれ受けとめていると思う。その面白さ・楽しさを学級・学年内で共有で

きたら、さらに面白くなるのでは、と考える。課題にしたら面白そう、と感じた内容をいくつか挙げたい。

### ①AtomがAstro Boy [1年生p.93]

なぜ名前が変えられているのか、また、AtomとAstro Boyそれぞれの意味は何か、このマンガの他の登場人物の名はどうなっているのか・生徒たちと一緒に調べたい。

### ②snow whiteとwhiteとの比較 [3年生p.69]

他の色 (yellow, black, brown, etc.) にも何か名詞を添えて、fashionable color variationを増やす活動をしたい。また、小学生の頃から逐語訳的に、赤: red, 青: blueなどのように身につけてきている色の名が表す範囲は日本語と英語では必ずしも一致していないという事実への気づき、purpleとvioletの違いを知る語源調べ、green/grass/growのつながりを知る、などにも触れたい。

### ③辞書で例文を確認したい語句

Let me ~. [1年生p.83] のときに、letを引き、let's = let usに戻ったり、Thank you. [1年生p.26] のthankもおさえておく和良好的ではないか。1年生p.83のWe have a tall one here.に用いられている代名詞oneも辞書で確認し、itとの使い分けをていねいに触れておきたい (この話題から逸れるが、このtall candleの使い道を言葉でなくイラストで表しているところが素敵だと感じた)。2年生p.58初出のownも、教科書内だけではなかなか出てこないの、色々な辞書からの例文を見ておきたい。

## 3 ある実践

2年生p.117にあった、受け身表現を含めた単語当てクイズから暗示を受け、「受け身表現を含めた説明文づくり」のwritingをやってみた (決して目新しい活動ではないが)。生徒たちは、私が与えた5つの説明文に目を通し、それらが説明しているものを与

えられた選択肢の中のどれか当てる (説明文には、生徒たちが後で使えそうな表現を多く含めるようにした)。次に、生徒たちのクイズづくりを行った (後で作品をまとめてプリントにする際に、より楽しい物になるように、可能ならイラストをつけるよう指示した。また、ペア [slow learner+leader] による助け合いで、slow learnerにも取り組み易くした)。具体的には以下のようなものである。

### ①説明文例

- ・ This is a brown animal. It is not sold at a pet shop. It is seen in Australia. It can move fast by jumping. It has a pocket.  
[kangaroo]
- ・ Many kinds of vegetables are used to cook this. It is often cooked when you go camping. It is usually very spicy and eaten with rice or nan / naan (bread).  
[curry]

### ②生徒作品例

- ・ It is a sport. It is played in the field. It was originated in America long ago. Bats, gloves and balls are used. [baseball]
- ・ It is made from flour, sugar and butter. It is in the shape of a circle or square. It has some chocolate chips. It is very sweet. [cookie]

## 4 おわりに

実際に使用しているのではない教科書をもし使うとしたら、と考えながら繰り返し読む中で、どこにどんな話題があり、どんな伏線が張られているかをよく知って活用していくのが大切だと強く感じた。教科書を隅々まで味わって大事に使えるように、様々な視点を持ち、また他の方々の実践から学びながら今後も努力を重ねていきたい。英語という教科が好きで生徒、母語とは違った切り口で世界を捉えられる生徒を育てるために。

# 簡単！便利！デジタル教科書のすすめ

大阪府豊中市立第八中学校 <sup>きの</sup>木埜 亜紀子

## 1 私にできるのか？ —デジタル教科書との出会い—

8年前、前任校で2年生担当のペアの英語の先生から、教科書会社の方がデジタル教科書の使い方を教えに職場にきてくれるという話があり、あつという間にサンプルをお借りしてスタートすることに。当時、ポータブルのプロジェクターは学校に1台。プロジェクターメーカーからモニターとして無料レンタルし、もう1台を確保。スクリーンは模造紙で代用。英語係に毎回手伝ってもらい、休み時間中に教室に運び入れました。パソコンで作れるのは文章と簡単な表くらいだった私には晴天の霹靂といった出来事でした。

その2年後、教科書採択の年にタイミング良くプロジェクター6台がさらに配置。CDの代わりに3学年ともデジタル教科書を購入し、英語科6名全員がデジタル教科書を使用せざるを得ない状況になりました。英語科皆、使いこなせるかと悩む余裕は全くなく、ネイティブの音声を流すにはデジタル教科書しかない状況に陥ったのです。そして、運搬しやすいようにと給食配膳台を6台購入。エレベーターも活用して、英語係の助けがなくても比較的短時間で配線可能となりました。

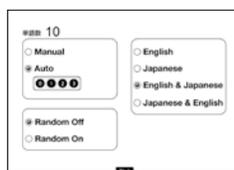
そして2年前、現任校に転勤になりました。教科書がONE WORLD English Courseに替わった時で、幸い、他の英語の先生もデジタル教科書の導入に前向きで、現在3学年ともデジタル教科書で毎時授業を行っています。

私自身、この8年間で3社のデジタル教科書を活用する機会を得て、デジタル教材の持つ魅力、その効果、手軽さを感じています。

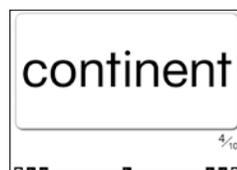
## 2 デジタル教科書の様々な機能

最大のメリットは、文字や絵・写真がスクリーンに大きく映し出せることです。教科書のどこをやっているのか一目瞭然ですし、なにより拡大して映せるので、生徒が前を向いて活動する時間が多くとれます。

フラッシュカード、ピクチャーカードが全てデジタル教科書に含まれており、20年弱続けてきたフラッシュカード作りから開放されました。ピクチャーカードがあれば、Oral Introductionがやりやすくなります。



▲フラッシュカード設定の画面



▲フラッシュカードの例



▲ピクチャーカードのバートー覧



▲本文読みの時の画面

なんとといっても本文読みで、カラオケの歌詞のように読む部分の色が変わっていくので、生徒が前を見てそろって発音できます。読めていないなと感じれば、すぐにその文をクリックします。その部分だけ繰り返すことができ、非常に便利です。

パワーポイントで自作のものを作らなくても、基本本文の説明やActivityなど、教科書に載っているものはほぼ全て入っているので、誰でも簡単に使用できます。特定の箇所の拡大機能もありますし、マーカー機能を使え

ば、本文に書き込みをしたり、重要な場所に色をつけたりもできます。

一部の教材には動画がついており、特に、3年生の落語の動画は生徒に好評です。毎年バージョンアップがあるようなので、さらに使いやすいものになると期待できます。

### 3 さらなる活用法

デジタル教科書を使用していると、常にパソコンが教室にある状態になっているため、投げ込み教材として画像や動画、インターネットのサイトを見せたいときにもすぐ対応できます。書画カメラを接続すれば、生徒のスピーチなどのプレゼンテーションの時に、生徒が持ってきたものをスクリーンに映し出し、スピーチがよりわかりやすくなります。

2年生のLesson5はハロウィーンが題材ですが、アップルポピングというゲームが紹介されています。インターネットのサイトからの動画や画像を見せると、生徒は興味を示し、よく理解してくれました。

3年生担当の先生が、オードリー・ヘプバーンの読み物の時に映画のDVDを見せたのも、生徒に好評でした。

学期の初めに、自分が旅行で写してきた写真をスライドショーにして英語のスモールトークをしています。授業に変化をつけることができ、重宝しています。

もし、デジタル教科書を使っていなければ、私は授業にパソコンを持っていこうという発想すらなかったと思います。常にパソコンがあり、インターネットに接続できる環境にあるからこそ、「何かやってみようかな」という気持ちになったのです。

### 4 デジタル教科書導入に向けての課題

導入に向けての問題点としては2つ挙げられます。まず1つは、準備の煩雑さです。ス

クリーン・プロジェクター・スピーカー（デジタルテレビでも可）そしてパソコンが必要です。各教室に1セット配置されるのが理想ですが、ほとんどの学校では無理なことなので、各教室に搬入することになります。本校ではカートの中に1セット収めてあるものが何組かありますが、エレベーターが校内にないため、教室によっては全てバラで持っていくことになります。こんなときは英語係などの助けを借りましょう。必ず喜んで協力する生徒がいます。英語教室のような特別教室に常設して、生徒に移動してきてもらうのも助かります。本校では空き教室がいくつもあるため、社会や英語の教員にはそれぞれ自分の教室があり、生徒が移動してきます。

2つめは、デジタル教科書購入の予算確保です。CDよりは少し値段が高くなります。しかし、デジタル教科書にはフラッシュカードやピクチャーカード機能もついていますから、毎時間使用で1時間あたりの費用を計算すれば、予算化してもらえる金額だと思えます。また、ネット配信の形でデジタル教科書を使用する場合は、年単位で使用料を払うので、教科書採択の初年度から購入していなくても割安で使用でき、バージョンアップにも即対応します。もちろん、従来通りCD-ROMで購入していても、バージョンアップされれば、各学校に新版が送られてきます。

課題としては、どうやって英語科全体として、デジタル教科書導入に踏み切るかでしょう。予算が限られる中、CD-ROMと両方購入するのは難しいため、学校としてデジタル教科書を導入することになるでしょう。数年後には、全教科でデジタル教科書を使用する時代になるかもしれません。それに向けて、パソコンに詳しい先生方が他の先生方に配線方法などをちょっと教えてくださるだけで、導入は可能です。いったんスタートすれば、続けていけるものです。

さあ、一緒に進んでいきませんか。

# 夢中になれる英語の学習をめざして

高知県南国市立大湊小学校 中島 佳史

## はじめに

本校は、2009年度文部科学省「英語教育改善のための調査研究事業」の指定を中学校校区（香南中学校・日章小学校・本校の3校）で受けて以来、英語教育に取り組んできました。また、事業指定が終わった後も県の教育課程特例校として、4年生以上は教科としての英語の学習をしています。

ここでは、本校の大まかな英語教育の取り組みや授業実践の一端を紹介します。

## 1 英語教育の概要

本校では、4年生以上が週1回（年間35時間）、教科としての英語の学習をしています。カリキュラムは、*Hi, friends!*の内容に準じたものに、“My hobby is ~.”や“What’s Japan famous for?”等の単元を加えたものになっています。また、学期末ごとに4人のネイティブゲストに来ていただき、交流学习もしています。

指導は、担任、ALT、専科教員（英語の専科教員ではなく、理科や家庭科を指導している専科教員）の3人でしています。本校は、どの学年も児童数が20名以下の小規模校ですので、一斉にリピート練習したり、ゲームをしたりするだけでなく、一人ひとり発音させたり、小グループで学習し、個々の状態



をチェックするようにしています。指導者が絵カードを持って児童間を回りながら一人ひとり発音させたり、3グループ

に分かれて指導者がそれぞれのグループに付き、カードゲームをしながらスピーキングをチェックし、その場で指導していく等の活動を授業の中に組み込んでいます。

また、授業の始めにALTのスピーチを入れるようにしています。スピーチの内容は、ALTの好きなもの、週末のこと等できるだけ生活に関わることを話してもらうようにしています。スピーチを始めた頃は、児童が聞き取れないことも多く、担任がストップをかけたり、言葉を補うことも度々ありましたが、授業で学習する表現以外の英語にも慣れ、少しずつですが話の大まかな内容が理解できるようになってきています。評価については、下の表のようにしています。



### 各観点と評価方法

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
行動観察	行動観察	行動観察	行動観察
振り返りシート	スピーキングテスト	リスニングテスト	振り返りシート

### スピーキングチェックシート

Speaking Check		"This is my family"		November 13 Wednesday	
<small>学習の目標</small> 自己紹介の表現になれ、自分の家族を紹介する。					
<small>評価基準</small> ◎自分で行った絵を見せながら家族を紹介したり、紹介した後、この人物は誰なのかを尋ねたりすることができている。					
名前	No.220	評価	コメント（表現、声の大きさ、相手の顔を見て）	表紙	
1				Can I show you my family?	
2				This is my ~.	
3				He/She is ~.	
4				He/She likes ~.	
5				He/She can ~.	
6				感想	
7					
8				好きなもの	

## リスニングチェックシート

2学期聞き取りテスト①	(day, month, date)
5th grade	name (
◆ロイ先生が言っていることを聞きとって線でつなぎましょう。	
①	・兄、弟
②	・お母さん
③	・おじいさん
④	・おばあさ

## 2 授業の様子 (5年生)

### ○ “What time is it?”

この單元では、60までの数を数えたり、時刻を尋ねたり答えたりできるようにすることを目標にしています。(20までの数は4年生のときに学習済み) “What time is it?” や “It’s ~.” という表現は比較的短時間で身に付きますが、アナログ時計を見てすぐに時刻を答えることは難しいため、朝の会や終わりの会、毎時間の号令のあと等、日常的に、“What time is it?” と児童に尋ねるようにしました。また、社会科の「日本は世界のどこにある～世界を一周してみよう～」の單元とも関連付け、世界の国々の名前や国によって時刻が違う等の学習を取り入れたタスクも



設定しました。4時間目の学習では、各教室を様々な国に見立て、グループに分かれてインターホン越しに相手の国の時刻を聞きあいました。

### ○ 「家族を紹介しよう」

この單元では、“He [She] is ~.” “He [She] can ~.” “He [She] likes ~.” 等の表現を使って家族の紹介することを目標にしています。また、紹介したあと、“Who is ~?” と紹介した相手に質問をします。最後の4時間目の学習では、授業を見に来てくださった先生方に家族を紹介したり、“Who is ~?” と質問したりする活動をしました。“What time is it?” の学習同様、隙間の時間を利用して “He [She] is ~.” “He [She] likes ~.”

等の表現を日常的にアウトプットするようにしました。

## 3 ネイティブゲストとの交流学習

本校では、毎学期末にネイティブのゲストに来ていただき、交流学習をしています。この交流学習では、学期内に学習した表現を使うように心がけています。各学期末に行われるこの單元は、単にそれぞれの学期の復習というだけでなく、いろいろな国の人々と自分の英語でコミュニケーションをとる体験をさせたいとも考えています。また、毎回できるだけ違う国のゲストに来ていただくことにより、様々な国の人が英語を使っていることや



英語はコミュニケーションツールであることを意識させたいと考えています。

## おわりに

教科として英語を指導していくとき、どうしても意識してしまうのが「定着」です。しかし、提示した表現を覚えさせることばかりを重視してしまうと意欲の低下を起しかねないし、積極的なコミュニケーションを図るという大きな目標からも外れてしまいます。一方で、授業をしていてよく聞こえてくるのが、「きちんと言えないとおもしろくない。」という児童の声です。何となく “Good!” と言われるよりも、きちんと指摘してもらいたいと思っている児童は少なくありません。

表現や語彙の定着をしっかりとしながらも、児童が夢中になって英語でコミュニケーションをとりたいと思える授業を創っていくためにも、言えた、伝わったという体感がしっかりとできるタスクを設定していかなければならないと考えています。

## You're Annie?

●津田塾大学大学院 野田 小枝子



写真：PPS 通信社

日本では、4月はいつも出会いの季節です。今回は出会いのシーンに焦点を当て、1993年、ノーラ・エフロン監督の『めぐり逢えたら』(*Sleepless in Seattle*)について考えたいと思います。この映画が公開されてから20年以上も経っています。もしかしたら、今ベテランの先生方の中で、映画館でご覧になった方もおいでではないでしょうか。

英語教師の視点から、この映画には5つほど楽しめる点があります。1つ目は、8歳の息子が父の相手(自分の新しい母親)を見つけようと奮闘する話で、子役の演技が光っているため、映画に描かれている子供の英語が十分楽しめるという点です。

2つ目は、1993年の時点でのコミュニケーション媒体を、現代と比較する楽しみがあるという点です。ラジオを聞いてラジオ番組のパーソナリティーに「電話」でじかに話しかける、それを聞いた人たちが「手紙」で返事を送るなどのことが、ごく自然にされていた時代です。2014年なら、さしずめネットでの語りかけにメールで応えるというところでしょうか。

1998年には同監督がトム・ハンクス、メグ・ライアンを主演にメールのやり取りをするうちに惹かれあう男女を描いた『ユー・ガット・メール』(*You've Got Mail*)を製作

していますが、1993年から数年でコミュニケーションの媒体が大きく変化していることがわかります。

楽しめる点の3つ目は、監督自らが書いている脚本です。ほとんどのセリフが短い単文でできていて、中学校3年生くらいの教科書に載せられそうな英語で成り立っています。語彙も少なく、低頻度語彙はめったにありません。恋愛映画であり大人のジョークが入っているという問題を除けば、中学生が理解できるセリフが満載です。

4つ目は、大道具としてのEmpire State Buildingです。なぜ、出会いの場所がここであるかという、この映画が1957年のレオ・マッケリー監督作『めぐり逢い』(*An Affair to Remember*)を下敷きにしていて、同じ出会いの場所を設定しているからです。では、『めぐり逢い』の中で、なぜ、この場所を主人公たちが選んだかという、「天国に、そして幸せが一番近い場所」というのが理由でした。もちろん、2001年同時多発テロ事件以来、このような場所を出会いの場所にする映画は作りにくくなったと思います。

なぜ、背景が大事かという、一つの例文だけでなく(教科書製作でも同じですが)、場面設定によりセリフが活きるかどうかが決まってくるからです。

5つ目は、ストーリー構成に関しての面白さですが、この映画での出会いのシーンは最後の部分で出てきます。したがって映画の大部分は、出会うまでの状況設定ということになります。だからこそ、冒頭に挙げたようなセリフとそれが的確に演じられることが重要になります。

このセリフにいたるまでのストーリーについて簡単にご紹介します。ご存じの方は読み

飛ばしてください。

シカゴに住む建築家のサム（トム・ハンクス）は、最愛の妻を癌で亡くし、息子ジョナ（ロス・マリンジャー）とともに、シアトルで新しい生活を始めましたが、気持ちはふさいだままです。

クリスマスイブに、ジョナは願いを打ち明けるラジオ番組に電話。父親に新しい奥さんを、と訴えて父親まで番組に巻き込み、サムも電話口で苦しみを吐露、アメリカ中の女性の涙をさそいます。

ボルチモアに住む新聞記者のアニー（メグ・ライアン）も心を動かされた一人でした。ラジオを聞いて何百人もの女性がサムに手紙を書きましたが、アニーもその一人でした。アニーには婚約者がいましたが、サムのことが気になり、インタビューと称してシアトルまで出かけますが、通りでHelloと声をかけ合うだけで話もできずに帰ってきます。

その間、ジョナも友だちのジェシカに協力してもらい、バレンタイン・デーにエンパイア・ステート・ビルの展望台で会いましょうというアニーの手紙に返事を書きます。

一方、アニーがシアトルに来た時に、空港や通りでアニーをたまたま見かけたサムは、知っている人に会ったような不思議な気持ちを味わいます。

ジョナはサムと一緒にニューヨークに行くと頼みますが、サムの答えはノーです。ジョナはここでもジェシカの協力で飛行機のチケットを買い、サムには秘密でニューヨークへ向かいます。

エンパイア・ステート・ビルの展望台に到着したジョナは、女性を見つけるとアニーかどうか聞くのでした。やがて日が暮れ、寂しそうな表情で座り込むジョナ。

サムは、ジョナが一人でニューヨークに向かったことをジェシカから聞き出すと、すぐにエンパイア・ステート・ビルに向かいます。ジョナを見つけて抱きしめるサム。

サムとジョナが展望台を去った後に、アニーが展望台に駆け込んできます。誰もいない展望台。アニーは望遠鏡の下にジョナのかばんを見つけます。ぬいぐるみのクマを取りだしたところに、忘れものに気づいたサムとジョナが戻ってきます。

*Sam:* It's you.

*Annie:* It's me.

*Sam:* I saw you in the street.

*Jonah:* Are you Annie?

*Annie:* Yes.

*Sam:* You're Annie?

*Annie:* (ジョナにぬいぐるみを見せて)

This must be yours.

*Jonah:* I'm Jonah. This is my dad. His name is Sam.

*Annie:* Hi. Jonah. Sam...

最後はエレベーターに乗り、アニーがサムに、It's nice to meet you.と言い、ジョナがにっこり笑って映画は終わります。

上のセリフは非常に単純ですが、単純だからこそ自然にかつ感情をこめて演じるのはなかなか難しいと思います。You're Annie? (君がアニーなの?) この1文で、「今までジョナがさんざん自分に会わせようと思っていたけれど変な人なのではないかと疑っていた人、道で会って知らない人とは思えなかった人、それが同じ人で、君がそのアニーだったんだね。そうなんだね。」という気持ちを凝縮して表現しなければなりません。この文は、少なくとも1年生の教科書の最初の部分では望ましくないとされる1文です。疑問文の形になっていない疑問文だからです。でも、このセリフをトム・ハンクスがどのように言うか聞いていただければ、改めてこの一文の重要性とこの俳優の演技のうまさに気づかれることと思います。

平叙文の形をした質問、疑問文の形をした断定、こういうものがことばの世界の奥行きを深くしていますね。

# Promises, promises

Peter J. Collins  
Tokai University

It's another new year, and another chance for to make promises to ourselves about how we're going to improve the quality of our day-to-day lives. Whether or not we keep these **New Year's resolutions**, of course, is another matter! According to the website Statistic Brain, 45% of Americans make resolutions every year, but only 64% of those who do so stick to them for longer than one month.

The website lists the ten most common resolutions for 2014. They're fairly predictable; the top three are losing weight, getting organized, and being more careful about money. When I realized that these have also been my own resolutions every year for as long as I can remember, I decided to start being more creative and concrete about my goals for this year.

My first? Not to **binge-watch** TV programs. A **binge** is a short period of time where we do much too much of something. In America, for example, the whole holiday season, starting with Thanksgiving in late November, feels like both an **eating binge** and a **shopping binge**. New Year's Eve is the climax, with many people going on **drinking binges** as they celebrate.

Before VCRs and DVD players, **binge-**

**watching** a single TV program wasn't an option; your favorite show came on daily or once a week. Now, however, you can record or buy complete seasons of almost any show you can imagine, and watch them all in just a few days. I once lost an entire weekend binge-watching a 32-episode Korean historical drama...

Another thing I'll try to avoid in the new year is **hate-watching** things. This is a term that first appeared in 2012 to describe the enjoyment people get from watching – and criticizing – shows they think are bad. Many **hate-watchers** share their negative reactions online. Though I don't go that far, there's a celebrity chef whose TV show I secretly hate-watch... That awful voice! Those impossibly complicated recipes! But from now on, I'm going to resist the temptation.

At the end of 2014, I hope I'll be able to say that I've crossed some things off my **bucket list**. This phrase, though relatively new, has its origins in the 18th-century idiom **to kick the bucket**, meaning to die. A person's bucket list includes everything they hope to do before dying. *The Bucket List*, a 2007 movie, revolves around two terminally ill men determined to do everything from skydiving to visiting the Pyramids before it's too late.



写真：PPS 通信社

I've asked some friends about their own 2014 resolutions. One has promised herself to stop

being a **cyberchondriac**. People who are overly concerned about their own health, often jumping to dire conclusions, are called hypochondriacs. Have a headache? It must be a brain tumor! And now, with the Internet offering countless opinions about every symptom and disease, it's easier than ever for hypochondriacs to become **cyberchondriacal**, going online to diagnose – or misdiagnose – themselves.

Another friend of mine has made a similar resolution – not to **catastrophize** situations. A catastrophe is a natural disaster or other tragic event. We catastrophize by exaggerating possible negative outcomes in our minds: “I can't believe I forgot our anniversary... Sarah's sure to divorce me!” A **drama queen** is another expression to describe people who say things like: “If I don't finish this report, I know I'll get fired! This time next year I'll probably be homeless...”

My cousin has been accused a few times of **humblebragging** on Facebook and has resolved not to this in 2014. **Humblebrag** is a new compound word referring to a statement that has two purposes: to make the speaker or writer seem humble, but also to allow them to brag. “I can't believe someone as lazy as me got a book published!” seems to suggest, “I'm nothing special...” but the real message is “Look at my achievement!” Many celebrities are infamous **humblebraggers**, tweeting things like, “Watched my TV interview – does my voice really sound that strange?” and “Too bad I didn't have a speech ready when they handed me the award...” Lists of celebrity humblebrags are increasingly popular online.



There are some smartphone-related resolutions I wish more people would make, the first regarding **selfies**. These are photos people take of themselves to send each other and to post on social media. Oxford Dictionaries recently named selfie the Word of the Year for 2013, so it seems that this trend is here to stay. Unfortunately, a couple people I know regret selfies they've shared online, especially **drelfies** – selfies they took and posted when they were drunk – but it's too late now!

This year may also be a good time to start limiting ourselves to interacting online with people we've actually met face-to-face. More and more instances of **catfishing** have come to light recently, where someone – called a **catfish** – creates a false identity. There are a few theories about where this term came from, especially since the movie *Catfish* and its spin-off reality series *Catfish: The TV Show* came out in 2010 and 2012, respectively. The explanation that makes the most sense to me is that restaurants sometimes misrepresent catfish (the food) as a more expensive fish, like salmon. Similarly, catfish (the people) are not as desirable as their online profiles.

The resolutions on Statistic Brain's *Top 10* list are admirable: learning something exciting, for example, or enjoying life to the fullest. But since I find it difficult to translate vague statements such as these into actions, I'm going to start slowly, with **baby steps**. That boxed set of *Modern Family* Seasons 1-4 I got for Christmas? I'll limit myself to one or two episodes a week! Well, maybe three or four... Okay – five, maximum!



# 小学校外国語活動のツボ



直山木綿子  編

各地域の様々な実践研究をもとにして、今後求められる外国語活動の方法論を細かく解説する。

## 目次

- 第1章** 解説編
- 第2章** 実践編 1～Hi, friends! 1～
- 第3章** 実践編 2～Hi, friends! 2～
- 第4章** 小学校外国語活動におけるコミュニケーション活動

A5判/196頁 定価：本体2,200円+税

 **教育出版**

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10  
TEL 03-3238-6965 FAX 03-3238-6999  
ホームページ <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



英語教育 通信 ONE WORLD Info (2014年春号) 2014年3月31日 発行

編集：教育出版株式会社編集部 発行：教育出版株式会社 代表者：小林一光  
印刷：大日本印刷株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)  
URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



**なかよし宣言**

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社** 〒060-0003 札幌市中央区北三条西 3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F  
TEL : 011-231-3445 FAX : 011-231-3509
- 函館営業所** 〒040-0011 函館市本町 6-7 函館第一生命ビルディング 3F  
TEL : 0138-51-0886 FAX : 0138-31-0198
- 東北支社** 〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F  
TEL : 022-227-0391 FAX : 022-227-0395
- 中部支社** 〒460-0011 名古屋市中区大須 4-10-40 カジウラテックスビル 5F  
TEL : 052-262-0821 FAX : 052-262-0825
- 関西支社** 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町 1-6-27 ヨシカワビル 7F  
TEL : 06-6261-9221 FAX : 06-6261-9401
- 中国支社** 〒730-0051 広島市中区大手町 3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F  
TEL : 082-249-6033 FAX : 082-249-6040
- 四国支社** 〒790-0004 松山市大街道 3-6-1 岡崎産業ビル 5F  
TEL : 089-943-7193 FAX : 089-943-7134
- 九州支社** 〒812-0007 福岡市博多区 2-11-30 クレセント東福岡E室  
TEL : 092-433-5100 FAX : 092-433-5140
- 沖縄営業所** 〒901-0155 那覇市金城 3-8-9 一粒ビル 3F  
TEL : 098-859-1411 FAX : 098-859-1411